

ほけん通信...

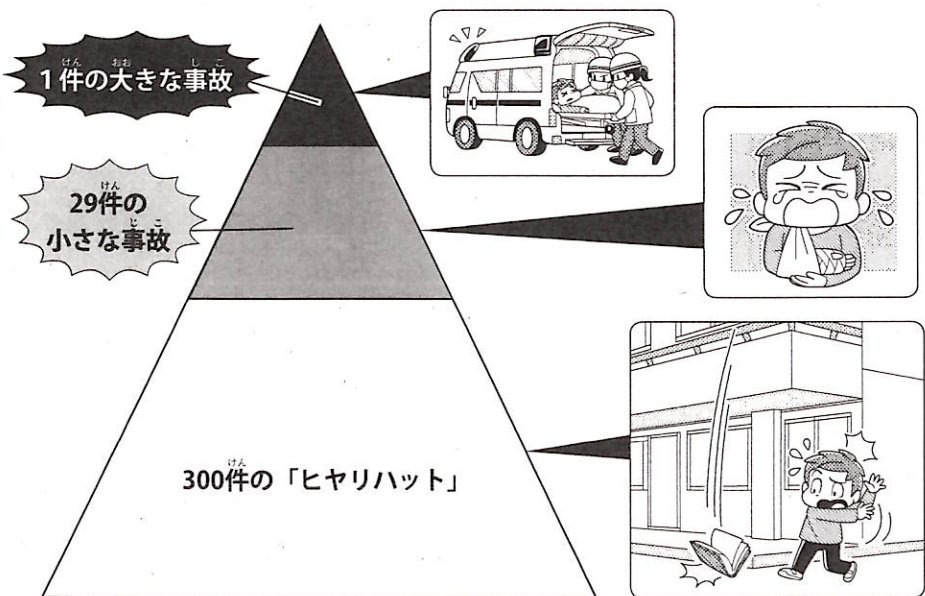
学校でのけがを防ごう

指導 東京学芸大学教職大学院 教授 渡邊 正樹 先生

毎日の生活の中でのけがを防ぐためには、どうすればよいのでしょうか？ 学校でも、けがをすることは少なくありません。事故やけがは、見通しが悪い、すべりやすいといったその場の環境と、周りを見ていない、あわてているといった人の行動とが関わり合って起こります。けがを防ぐためには、周りの状況をよく見て危険を予測し、安全な行動をとることが大切です。

〈ヒヤリハット〉に注意！

けがをしそうになって、思わず「ヒヤリ」としたり「ハッ」としたりしたことはありませんか？
 このような、「事故にはならなかったけれど、なっけていてもおかしくないような危ないできごと」のことを〈ヒヤリハット〉といいます。1つの大きな事故が起こる裏には、29の小さな事故と、300の〈ヒヤリハット〉があるといわれています*。〈ヒヤリハット〉を体験したら、「たまたま事故にならなかっただけ」と考え、より注意深く行動することが大切です。



*アメリカのH. W. ハインリッヒが発表した法則。

事故やけがはなぜ起こる？

その場の環境 (例)

関わり合って起こる

人の行動 (例)

見通しが悪い

見通しの悪い曲がり角などは、衝突事故が起こりやすい。



周りを見ていない

手元の物などに夢中になっていると、危険に気づけない。

ぶつかるかも！

片付いていない

床や地面に物がちらかっていると、足をとられやすい。



ふざけている

ふざけていると、興奮してしまい、危険に気づけない。

ボールに足をとられてころぶかも！

すべりやすい

水などでぬれた場所は、すべって転びやすくなる。



決まりを守らない

ルールを守らない行動は、自分も周りの人も危険にする。

ぬれた床ですべってころぶかも！

行動に影響する

環境を整えるためにできること

- 身の回りの整理・整頓をする。
- 汚したり、汚れた場所を見つけたら、そうじをする。
- 運動用具などを使ったら、片付ける。
- 壊れた設備や遊具などを見つけたら、先生に知らせる。

心や体の調子

悩みがある、体の調子が悪い、疲れているといった場合も、周りの状況を正しく見極めることができなくなります。